ふくし TIMES
http://www.knsyk.jp
福祉タイムズ
ともしび運動
1
2010 No.698

〈写真・菊地信夫〉

「みんながともに生きるまち」を描いて

少しはにかんだ優しい笑顔がすてきな山田健太さん（横浜市立平戸小学校２年）。手に持つのは「第30回ともしびポスターコンテスト」で全1,207点もの応募の中からともしび大賞を受賞した作品。タイトル「みんながともに生きるまち」。

「自由にのびのびと描けるテーマだから」とお母さんに勧められ、今回初めて応募した山田さん。費やした期間は１週間。夏休みの時間を使って、じっくりと一人ひとりの顔を思い浮かべながら描いた。

そうして完成した作品には、大好きなお母さんやお父さん、双子のお兄さんだけにとどまらず、小学校の英語の先生、幼稚園の頃にかわいがっていたヤギの“メリー”などたくさんの優しい笑顔が描かれている。

「みんなで仲良く、笑い合っている顔を描きたかった」照れながら話す山田さんの言葉には、ありのままを受け入れる、包み込むような優しさが感じ取られた。

「みんなが優しくて、助け合っているまちにしていきたい」純粋で真っすぐな山田さんの思いは、これからもたくさんの人に笑顔をともしていく。

CONTENTS

県社協のひろば
年頭挨拶、ともしびポスター・絵本コンテスト表彰式ほか …… 2
NEWS＆TOPICS
2009年福祉の動き …… 4
福祉人材確保定着・最前線 …… 6
でかけてみませんか …… 7
連載
子どもたちがのびのびと育つために－第10回－ …… 8
かながわＨＯＴ情報
ともしび絵本コンテスト大賞作品紹介 …… 12

恭賀新年

会員の皆さまをはじめ、関係者の皆さまとともに、健やかな新年を迎えられましたことを心よりお喜び申し上げます。

昨年は、「チェンジ」を合言葉に、アメリカから始まった変革の波が、わが国にも及び、十六年ぶりの「政権交代」が起こりました。

しかし、景気は依然として停滞したまま、一向に浮かび上がる気配は見えず、経済・雇用情勢は厳しさを増しています。また、変革の余波は、少なからず現場で混乱を招いている状況にもあり、私たちの〝県民の生活を守る〟という使命は、ますます重要なものとなっています。

本会では、こうした福祉を取り巻く環境の変化の波に翻弄されることなく、これを変革の大きな契機ととらえ、会員の皆さまをはじめ県民の皆さまの信頼と期待に応えてまいりたいと存じます。また、過去に固執することなく、職員の意識の改革と組織力の向上を図り、誰もが安心して将来に希望を抱くことができる、明るい未来への扉を開く力強い一歩を踏み出す年にしてまいりたいと考えております。

皆さまには、旧年にも増してご理解、ご支援を賜りますとともに、良き年となりますよう祈念し、新年のご挨拶といたします。

社会福祉法人
神奈川県社会福祉協議会
会長　林　英樹

「みんながともに生きるまち」ともしびポスター・絵本コンテスト表彰式開催

「みんながともに生きるまち」をテーマにしたともしびポスター・絵本コンテストはそれぞれ第三十回・二十三回目を迎えました。

県内の学校に通う子どもたちからポスターの部では千二百七点、絵本の部では二百三点もの応募があり、九十四点の入賞作品が選出され、昨年十二月十二日に県社会福祉会館において表彰式が開催されました。

当日は受賞者をはじめ、ご家族など多くの方が出席されました。会場内に設けられた作品展示コーナーでは、開式前から、自分の描いた作品を前に、満面の笑顔で写真を撮ったり、来年の創作に向け、作品をじっくりと観察している様子が見られました。

ポスターの部では、審査委員長で画家の土田邦彦さんから講評をいただきました。土田さんは、「ともに生きる社会には『たすけあう』という思いやりと実行が必要です。その原点は皆さんの作品から感じ取られる『やさしいこころ』を、全ての人々が持ち合うことなのだと気付かされます」と、作品から共通して伝わる思いを話されました。

絵本の部では、副審査委員長で県教育委員会高校教育課の甲斐秀幸さんから講評をいただきました。甲斐さんは、「絵本作りを通して『みんながともに生きる』ことの大切さに皆さんが気付き、考えたことを伝える力を身につけることができたはずです。それはこのコンテストで一番大事なことです」と、話されました。

入賞作品は、平成二十二年三月十三・十四日にかながわ県民センターで開催される「市民活動フェア二〇一〇」等で展示します。

（ともしび運動推進担当）

表彰式には受章者とその家族のほか、関係者を含め約230名が出席。

社会福祉施設における人権侵害をなくすための取り組み

昨年度、県下の社会福祉施設（以下、施設）の職員による利用者への人権侵害など、不適切な出来事がありました。これにより松沢県知事は、不祥事の未然・再発防止策のためには、施設等で働く職員一人ひとりが、自分自身にも起こりうる人権意識の問題として受け止めていただくこと、管理監督の立場にある方々は、職員とともに解決していくという原点に立ち返ること、そして県としては、職員研修の実施や必要な指針の作成など、関係機関と一体となった取り組みを進めていく、と言った緊急アピールを出しています。

また、七月には県保健福祉部より県所管の児童・障害・高齢の各施設（計四、七九五施設等）の職員を対象にした一斉点検が実施され（回収率七六・八％）、その点検結果を踏まえ、六六・六％の施設が人権をテーマにした職員間の意見交換や研修等を行いました。

この結果を受け、本会と県の共同で、各施設等で活用できる不祥事防止策の検討を行ってきましたが、より開かれた施設への取り組みとして、苦情解決の仕組みの活用等の周知を図り実効性のあるものとするほか、県福祉監査指導課内に、「社会福祉施設等職員の透明な職場づくり相談窓口」が設置されました。（☎045－210－8787 平日の午前九時から午後五時まで）

そのほか、管理者研修や職員研修等の充実として、本会で実施している研修において、人権意識の向上や利用者支援の技術の向上などを強化することとしています。

本会では、来る二月九日午後一時から施設部会主催の研修会「施設における利用者への権利侵害をなくすため」を実施します。主な内容としては、施設側からの権利侵害として捉えられた内容と生じた背景、さらには今後の課題解決に向けた具体的な取り組みなどの事例発表や、権利侵害が発生しやすい要因や回避方法など、参加者との意見交換を通し人権を考えてもらう機会とします。

（社会福祉施設・団体担当）

介護支援専門員実務研修受講試験　合格状況

平成二十一年十月二十五日、「第十二回介護支援専門員実務研修受講試験」を実施しました。

会場は県内五カ所（青山学院大学他）、受験者数は八、〇五六名、合格者は一、九二四名（合格率二三・九％）でした。受験者数は平成十年の第一回試験に次ぐ人数となりました。職種別の合格者は表のとおりです。

引き続き県内の介護福祉士の資格保有者は増加傾向にありますが、全国の資格累計では介護福祉士と看護師がほぼ同じ割合となっています。

合格者に対する実務研修は二月上旬から、本会、横浜市社協、川崎市社協で実施されます。

（介護支援専門員支援担当）

平成21年度介護支援専門員実務研修受講試験　職種（資格）別合格状況

職　種	合格者数（人）（　）内は昨年度	比率（%）（　）内は昨年度
介護福祉士	1,326(1,284)	68.92(68.44)
看護師	134 (117)	6.97 (6.24)
社会福祉士	118 (149)	6.13 (7.94)
介護等業務従事者	112 (88)	5.82 (4.69)
相談援助業務従事者	68 (61)	3.53 (3.25)
栄養士（管理栄養士を含む）	30 (44)	1.56 (2.35)
歯科衛生士	24 (18)	1.25 (0.96)
薬剤師	19 (24)	0.99 (1.28)
あん摩マッサージ指圧師	17 (9)	0.88 (0.48)
作業療法士	15 (17)	0.78 (0.91)
理学療法士	14 (24)	0.73 (1.28)
保健師	14 (10)	0.73 (0.53)
精神保健福祉士	8 (7)	0.42 (0.37)
准看護師	7 (8)	0.36 (0.43)
柔道整復師	7 (1)	0.36 (0.05)
はり師	4 (1)	0.21 (0.05)
言語聴覚士	3 (3)	0.16 (0.16)
助産師	2 (1)	0.10 (0.05)
歯科医師	1 (6)	0.05 (0.32)
視能訓練士	1 (1)	0.05 (0.05)
医師	0 (3)	0.00 (0.16)
義肢装具士	0 (0)	0.00 (0)
きゅう師	0 (0)	0.00 (0)
計	1,924(1,876)	100(100)

福祉の動き

○全国の動き　◇県内の動き　★本会の動き

福祉関連のうごき（○付き数字は本紙での関連記事掲載月）

1

○内閣府、配偶者からの暴力（DV）被害者に対する全国統一の電話サービス開設
○厚労省、介護分野の人材確保対策としてハローワークに専門の職業相談コーナーを開設。また、資格取得に向け職業訓練期間中の雇用保険給付の拡充を発表
○日・インドネシア経済連携協定に基づくインドネシア人介護福祉士候補者のうち、日本語等研修を修了した101人が就労・研修を開始
○厚労省の調査で、特養など介護保険施設の入所者の要介護度が重くなっていることが明らかとなった。介護保険が導入された00年に3・35だった特養の平均要介護度は3・8に
○08年度第2次予算成立、介護人材対策に1680億円
○仕事と住居を失った非正規社員らを支援するため開設された年越し派遣村に予想を超える人が集まり、厚労省は講堂を臨時開放する異例の措置
★★第32回県福祉作文コンクール表彰式開催。1万816編の応募②
★福祉・介護における緊急相談会を開催②

2

○日本経済団体連合会、宇宙開発や介護・保育など新規雇用創出にむけた日本版ニューディールを提言
○厚労省、障害者雇用率未達成企業に納付金適用を決定
○厚労省社会保険審査会少子化対策特別部会、保育制度改革案の提言を盛り込んだ第1次報告をまとめる
○東京大学と筑波大学、企業の退職者や介護経験のある主婦などを対象にした「市民後見人養成プログラム」を開発
○厚労省、ハローワークにおける介護職の紹介状況の推移を公表。07年と比較して08年12月の新規求職者数は2549人増加、就職率は58・2%で0・8ポイントの増加
★★災害に強いまちづくりかながわ集会開催③
★「職場での『モラル・ハラスメント』への取り組み」をテーマに、法人施設マネジメント研修開催④

3

○内閣府の調査で、配偶者からの暴力（DV）を受けたことがある女性が3人に1人いることが判明
○厚労省「障害者の一般就労を支える人材の育成のあり方に関する研究会」が、就労支援に携わる人に共通して必要な基本的知識・スキルを明確にし、専門性を身につけるために研修のモデルカリキュラムを報告書にまとめる
○ニートや引きこもりの若者の自立支援を目的とした「青少年総合対策推進法案」が閣議決定
○厚労省の調査で、65歳未満で認知症を発症する「若年性認知症」の患者の全国推計が3万7750人に上ることが判明
○こども未来財団、婦人保護施設の入所女性と同伴児童に関する全国調査を実施。児童担当職員がいる施設は24%に過ぎないことが判明
○男性介護者と支援者の全国ネットワークが京都市に発足
○全社協、権利擁護・虐待防止制度の現状、活動団体の報告、実践例、統計資料などをまとめた「権利擁護・虐待防止年報2009」を公表
◇横浜市、敬老・福祉パスが横浜市越境乗車を可能に
◇県、全国初となる犯罪被害者等への総合的支援条例「神奈川県犯罪被害者等支援条例」制定

4

○日本司法書士会連合会などは「高齢者虐待防止法」に対する改正を提言
○全社協「障害者の虐待防止に関する検討委員会」、「障害者虐待防止の手引き」をまとめる
◇県、「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律（DV防止法）」の改正に伴い「かながわDV被害者支援プラン」改定
◇県、「神奈川県障害福祉計画」改定（第2期平成21年度から平成23年度）
◇県、「神奈川県ホームレスの自立の支援等に関する実施計画」策定
◇県所管内に約50年ぶりとなる児童養護施設が新設

5

○厚労省、「若年性認知症」の患者11人とその家族、支援団体の関係者らと初の「若年性認知症施策を推進するための意見交換会」開催
○厚労省、精神障害者雇用推進モデル事業を委託する9社を選定し実施
○厚労省、「社会的養護施設に関する実態調査」の結果を公表。施設入所児童が家庭で受けた虐待の種類は「ネグレクト」が多いことが明らかに
○全日本手をつなぐ育成会、知的障害のある方も作成に関わった「わかりやすい障害者の権利条約」の出版記念学習会を開催
◇県、緊急経済対策の一環として「かながわ求職者支援センター」を開設
○日本経済新聞調べで、東京・名古屋・大阪の3都市で特養など施設に入居を目的に、転居した高齢者は15000人に上ることが明らかに

社会のうごき・事件・事故

1

▽バラク・オバマ第44代米大統領誕生
▽文科省は、08年に全国小学5年生と中学校2年生を対象に初めて実施した「全国体力テスト」の結果を公表。1週間にほとんど運動しない生徒が、中学校では女子の約3割、男子の約1割に及んだ
▽日本経済団体連合会と日本労働組合総連合会が連盟で、労使が協調して雇用問題に取り組む「雇用安定・創出に向けた労使共同宣言」を発表

2

▽中国が1月の新車販売台数で初の世界一に
▽ロシア通信衛星とアメリカイリジウム衛星が衝突
▽ローマ市がダライ・ラマ14世へ名誉市民称号を授与
▽長野・群馬県堺の浅間山が噴火
▽「おくりびと」「つみきのいえ」がアカデミー賞受賞

3

▽定額給付金財源法が成立
▽金賢姫元工作員と北朝鮮拉致被害者田口八重子さんの家族が韓国・釜山で面会
▽宇宙飛行士若田光一さんシャトル長期宇宙滞在へ
▽成田空港で米貨物機が着陸失敗、炎上

4

▽新型インフルエンザが世界規模で流行
▽北朝鮮が弾道ミサイルを発射
▽天皇・皇后両陛下、ご結婚50年を迎える
▽障害団体に適用される郵便料金の割引制度を悪用したとして関係団体一斉捜査

5

▽裁判員制度開始
▽韓国ノ・ムヒョン前大統領死亡
▽新型インフルエンザ感染者、国内で初確認
▽「放浪記」の森光子さん、国民栄誉賞受賞

２００９年

6

○法務省、「児童虐待防止のための親権制度研究会」を設置。厚労省、最高裁担当者も交え検討へ
○子育て中の短時間勤務制度及び所定外労働の免除の義務化などを盛り込んだ「改正育児・介護休業法」が成立
◇県、県警、(N)神奈川被害者支援センターの三者が、犯罪被害者を総合的に支援する「かながわ犯罪被害者サポートステーション」を開所⑧
◇社会福祉施設等における不祥事の防止について、県知事が緊急アピールを発出。施設職員全員に一斉自己点検の取り組みを推進
★★第45回関東ブロック老人福祉施設研究総会・第8回かながわ高齢者福祉研究大会合同大会開催⑧
★第45回関東ブロック児童養護施設研究協議会開催⑧

○厚労省の調べで、児童養護施設などで暮らしている児童が47年ぶりに4万人を超えたことが判明
○厚労省、要介護認定の新基準について43項目を修正する方針を決定
○日本介護支援専門員協会、災害が時に被災地域の高齢者などに対する支援を円滑に行えるよう「災害対応マニュアル」を作成
○「認知症を知り地域をつくる100年」構想の一環である認知症サポーター養成が100万人に。報告記念会開催
★関東ブロック都県・指定都市社会福祉協議会生活福祉資金担当職員研究協議会開催

▽米歌手マイケル・ジャクソンさん死去
▽全盲ピアニストの辻井伸行さん、米コンクールで日本人初の優勝
▽米3大自動車メーカー最大手のゼネラル・モーターズ（GM）が経営破たん

▽日本初の有人宇宙実験棟「きぼう」が完成
▽脳死を一般に「人の死」と位置づけ、臓器提供の年齢制限を撤廃する「改正臓器移植法」成立
▽有効求人倍率、過去最悪の0・42倍
▽平成21年7月中国、中国・九州北部豪雨発生
▽日本で46年ぶりの皆既日食
▽本県の総人口が900万人を突破
▽宇宙飛行士の若田光一さん、地球へ帰還

7

○厚労省、重い肝機能障害の患者について新たに身体障害者と認定し、障害者手帳の交付対象とする方針を決定
○ボランティア活動の推進役として大きな役割を果たしてきた「社団法人日本青年奉仕協会」が解散することに。42年間の活動に幕
○内閣府は07～08年の自殺者の年齢、職業、原因などを発祥地の警察署別に整理した速報値をホームページで初めて公開
★第8回かながわシニア美術展開催。日本画・洋画・彫刻・工芸・書・写真の5部門に計648点が出品⑨
★福祉の仕事を知る懇談会を開催⑨

▽第45回衆院選で民主党圧勝、与野党逆転
▽世界陸上、ウサインボルト選手が9秒58で世界新
▽横浜市長選挙で林文子さんが当選。政令指定都市で2人目の女性市長誕生

▽社民、国民新との3党連立政権を樹立し、鳩山内閣誕生
▽消費者庁が発足
▽行政刷新会議の設置が閣議決定
▽大リーグ、マリナーズイチロー選手、9年連続200本安打達成

8

○厚労省の調べで、100歳以上の高齢者は全国に4万人以上に上ることが明らかに
○障害者権利条約の批准と国内法整備、条約を踏まえた障害者差別禁止条例の制定に向け論議を進めようと、大阪府内の障害関係30団体が大阪障害フォーラム（ODF）を結成
○長妻厚労相、障害者自立支援法・後期高齢者医療制度を廃止する意向を表明
○法務省「更生保護施設の収容能力を拡大するため、社会福祉法人の新規参入を促すことを求める報告書を公表
○厚労省、「今後の精神保健医療福祉のあり方等に関する検討会」、「精神保健医療福祉の改革ビジョン」をさらに推し進めるための報告書をまとめる

▽法制審議会、民法の成人年齢について、「18歳に引き下げるのが適当」とする答申を法務省に提出
▽日本航空の経営再建問題で、企業再生支援機構に債権支援を要請
▽相模原市平成22年4月から政令指定都市に移行決定

9

○長妻厚労相、「介護職員処遇改善等臨時特別交付金」について12年度以降継続させる方針を明らかに
○児童虐待防止の推進に向け、児童相談所全国共通ダイヤルの運用を開始
○若年性認知症の全国初の電話無料相談（社福法人仁至会認知症介護研究・研修大府センター）
○福島少子化相、総合的な少子化対策の指針「少子化社会対策大綱」に代わる「子ども・子育てビジョン」（仮称）の策定を発表
○厚労省、日本の相対的貧困率を公表。07年は15・7％、一人親家庭を含む18歳未満の子どもの貧困率は14・2％に
★厳しい雇用情勢を受け、生活福祉資金貸付事業が総合支援資金や臨時特例つなぎ資金の創設など大幅に見直し⑩
★★平成20年度事業外部評価結果公表⑩
★★第58回県社会福祉大会開催⑪
★経営管理充実セミナー開催⑪

○08年度高齢者虐待は1万5千件。同居家族が加害者となるケース8割超
○厚労省、認可保育所の居室面積基準について待機児童の多い都市部に限り、一時的措置として地方自治体の条例で自由に定められるようにする対応方針を決定
○緊急雇用対策「ワンストップ・サービス・デイ」を開催
◇社会福祉施設等における不祥事防止に向けた取り組みの一環で、福祉監査指導課内に「社会福祉施設等職員の透明な職場づくり相談窓口」を設置
★★★第27回関東ブロック乳児院協議会職員研修会開催
★日常生活自立支援事業（地域福祉権利擁護事業）10周年・第三者評価普及合同シンポジウム開催
★社会福祉施設の地域福祉推進を考えるセミナー開催⑫

▽大リーグ、ヤンキース松井秀喜選手、日本人初のワールドシリーズMVP獲得
▽バラク・オバマ米大統領初来日
▽東京市場14年ぶりに1ドル86円台まで急伸
▽天皇陛下ご即位20年
▽俳優の森繁久弥さん死去
▽情報収集衛星を搭載したH2Aロケット打ち上げ成功

10

○ハローワーク、介護分野の就職面接会「介護就職デイ」を初めて開催
○鳩山首相、暫定税率は実質維持、子ども手当ては所得制限を設けない考えを表明
○生活保護のひとり親世帯に対する「母子加算」が復活

▽バラク・オバマ米大統領、ノーベル平和賞受賞
▽米歌手スティービーワンダーさん、国連の平和大使に

達成感のある福祉の仕事
―共に高め合う職場環境を目標として

特別養護老人ホーム「しらゆり園」（横浜市戸塚区。以下、園）は入所百二十四名、短期入所十六名通所四十二名定員で、職員百十九名の施設です。

今号は、園長の東方直道さんに職員採用での課題、職員研修の現状、職員に求められる資質などについてお話を伺いました。

○職員採用における課題

東方さんは、最初は漠然としたものであっても、自分は何をしたいのか、働く意欲や目的を持つことが重要と考えています。

「職員募集は県社協の福祉人材センターを利用したり、急募であればハローワーク、駅に置いてある求人誌、新聞折込等を利用しています。最近の傾向は中高年の人や無資格・未経験者が増えてきたことです。その中には、高齢者施設での仕事のイメージが漠然としている人もいます。現在は、採用後の人材育成をいかに行っていくかが大きな課題になっています」と指摘されます。

○現場の課題につながる研修を

介護保険制度では、利用者と施設との直接契約を基本に福祉サービスが提供されていますが、施設職員は決められている内容だけを提供すればいいのではなく、利用者の日常生活の様子や利用者個々のニーズの中から、専門職として柔軟に考え、機敏に対応することが求められます。

園では、現場の取り組み課題を明確にし、その課題に対して職員が、主体的に解決に向けて動けることを目標とした研修を重視しています。毎年、併設の地域ケアプラザとの合同研修等を実施しているほか、外部研修にも参加しています。中でも、救急法やＡＥＤ（自動体外式除細動器）使用に関する研修、感染症予防研修は、現場でも必要性が高い研修です。

また、利用者の死に立ち会うこともあるため、その方の人生を振り返り、死の瞬間と職員によるケアについて学びあう、看取り報告会を実施しています。

このような取り組みを継続して実施した結果、現場では中堅職員が業務の改善目標を掲げ、サービスの質の向上に努めています。

○人間性やセンスに支えられて

福祉の仕事は、一定の資格が求められる時もありますが、最終的には職員の人間性やセンスによって支えられているともいえます。

園では、レクリエーションや利用者の趣味の活動を、できるだけ園から出て外で行えないかと考えています。

昨年は「競馬に行きたい」という利用者の希望を実現しました。

また、年二回行う利用者懇談会で出された、「三崎に行ってマグロを食べたい」という声に応え出かけました。実際は職員の人数が限られた中でどのように進めていくか、悩ましい課題がありましたが、職員たちはあきらめず、試行錯誤しながらも前に向かって動きました。

園の理念である「人権・ノーマライゼーション・共生の福祉」に基づいた取り組みは険しいですが、いま、確実な一歩を刻んでいます。

（福祉人材無料職業紹介担当）

PORTSIDE
for the best communication 35th Anniversary
All-round Communicate
株式会社ポートサイド印刷
営業品目
●企画・デザイン・文字情報処理・印刷・製本
●ポスター・パンフレット・販促チラシ・D.M.・製品カタログ・会社案内・定期刊行物・自費出版・カレンダー・各種ノベルティ
●データ処理・入力・データベース・ホームページ・クロスメディア活用 他
営業本部・工場
〒236-0002 横浜市金沢区鳥浜町16-2
Tel.045-776-2671(代) Fax.045-776-2678
http://www.portside.co.jp

神奈川県福祉研究会
（税務・会計の専門家グループ）
理事　伊藤 正孝（☎045 - 412 - 2110）
同　桑江 郁男（☎045 - 402 - 4433）
同　辻村 祥造（☎045 - 311 - 5162）
同　西迫 一郎（☎046 - 221 - 1328）
同　林 雄一郎（☎0466 - 26 - 3351）
代表理事　八木 時雄（☎042 - 773 - 9266）

一般家庭から大型ビルまで
最新のエレクトロ技術により安心と安全を提供します。
京浜警備保障株式会社
代表取締役社長　岡本誠一郎
本社　〒221-0056 横浜市神奈川区金港町5番地10 金港ビル4F内
☎(045)461－0101 代表　FAX (045)441－1527

でかけてみませんか

京浜急行線で行く
『軍港とカレーの街、横須賀』
（汐入駅、横須賀中央駅周辺）

今号は、約150年前のペリー来航の時代から軍港として歴史を刻んできた横須賀を紹介します。軍港の街であり、そして「よこすか海軍カレー」が有名となりすっかりカレーの街としても定着した横須賀。潮風漂う横須賀の街へ出かけてみませんか。

今月は ⇨ NPO法人神奈川県障害者自立生活支援センター **がお伝えします！**

通称KILC（キルク）。1997年４月設立。障害者の自立生活を目指してピアカウンセリング（障害者による相談事業）や各種情報提供、障害者施策の研究・提言など障害当事者の目線で共生社会の実現を目指した活動を展開。現在、厚木・平塚２ヶ所を拠点に活動中。

〈連絡先〉〔法人本部〕厚木市愛甲953－２
TEL.046－247－7503　FAX.046－247－7508
URL）http://www.kilc.org E-mail)info@kilc.org

まずはどぶ板通りを散策

京浜急行線汐入駅を下車、横須賀本町どぶ板通り商店街（通称：どぶ板通り）までは電動車いすでほんの１分程。この商店街は「軍港の街、横須賀」にふさわしく、軍服をはじめとしたミリタリーグッズ（軍隊用品）を扱った店等が軒を並べています。中でも、彩り鮮やかな刺繍が美しく施されたヨコスカジャンパー（スカジャン）が人気で、6,000円くらいで手に入るとのこと。こだわり派は自分でデザインを持ち込んでオーダーすることも可能。シンプルな刺繍であれば、10,000円くらいから作ってもらえるようです。休日には、商店街の中ほどに古着を扱う露天商が店を出し、にぎわいを見せます。中には入口に段差があるために、入ることができないお店がいくつかあり、残念でした。

どぶ板通り。路面は整備されており歩きやすい

街散策でお腹が空いたら、横須賀にすっかり定着した「よこすか海軍カレー」がお薦め。その始まりは明治時代、日本海軍がイギリス海軍の食事から取り入れたところ、隊員の間で人気のメニューとなり、ここから日本の家庭に広まったと言われています。汐入駅から横須賀中央駅には、この海軍カレーを食べることのできるお店が点在しています。

公園で潮風に吹かれてみる

どぶ板通りから国道16号線、三笠公園通りを抜けると三笠公園に。この公園は東京湾唯一の自然島である、猿島への船が出航する乗り場に隣接しており、また日露戦争で活躍した戦艦「三笠」が復元保存されていることでも有名。艦内には展示室があり、入ることができますが、車いすでは甲板にあがることはできません。園内には音楽噴水池や芝生広場などが整備されており、お弁当を持って景色を見ながら、のんびり過ごすのに最適です。汐入駅より１つ先の横須賀中央駅からであれば、徒歩15分程度でアクセス可能です。

横須賀中央駅から散策する方は、駅から徒歩２分の場所にある「ＹＹ（わいわい）ポート横須賀」に立ち寄ってみては。１階には横須賀観光のインフォメーションセンターや、横須賀物産品コーナーがあり、いろいろな情報やパンフレットを入手することができるほか、また横須賀名物や珍しいグッズ等を買うことができます。お土産としても定番のレトルト版海軍カレーは、種類が驚くほど豊富です。

インフォメーション
■横須賀本町どぶ板通り商店街
http://dobuita-st.com/
■横須賀市観光協会
http://www.yokosuka-kanko.com/

◆ご意見・ご感想はkikaku@knsyk. jpまでお寄せください。

連載

子どもたちがのびのびと育つために
～社会全体での子育ち・子育て支援にむけて　【第十回】

産官学が連携した子育ち支援
～「よこすかキャリア教育推進事業」（横須賀市）

今、学校など教育の現場では子ども一人ひとりが将来の夢や希望をもてるよう職場体験やインターンシップなどの体験活動を通じた「キャリア教育」を積極的にすすめています。

今号では、横須賀市教育委員会・横須賀商工会議所・横須賀市の「よこすかキャリア教育推進事業」の取り組みから、企業との関わりから子どもの職業観や勤労観を育て、将来に向けて成長する力を育むための支援について考えます。

地域を担う子どもを育てたい

文部科学省では、職場体験やインターンシップの充実を図るため、平成十七年より産官学が連携したキャリア教育を推進しています。

これを受け、横須賀市では同年に、「横須賀市キャリア教育推進協議会」を市教育委員会に設置。横須賀商工会議所（以下、商工会議所）と連携してキャリア教育の推進に向け議論が重ねられました。平成二十年度からは、横須賀市が加わり、市教育委員会、商工会議所の三者で「横須賀市キャリア教育推進事務局」を設置し、「よこすかキャリア教育推進事業」を展開しています。横須賀を担う人材を、①地域で育てる、②地域で活躍できる土壌を築くことを長期的なねらいとするこの事業では、主に、「事業に賛同してくれる市内事業所の開拓」、「情報発信（ホームページ開設等）」、中学校の総合学習の時間を活用した「中学生〝自分再発見〟プロジェクト」を実施しています。

事業開始当初から関わる、元中学校校長で現在は、商工会議所のキャリア教育推進コーディネーターである細野裕さんは、「市の人口減少が見込まれる中、将来子どもたちが地域産業人となることで、地域に還元してくれる存在であるという視点に立ち、企業の特性を生かして、地域で人材を育てていく必要があります」と地元企業が、子どもの育ちに関わる理由を話します。

心豊かな人間性を育むために

また、市教育委員会指導主事の望月幸治さんは、子どもたちが置かれている状況と、産業界、教育界、行政が協働で作る取り組みの必要性を次のように話します。

「社会の価値観の多様化等により、自分の良さを見つけられないまま成長している子ども、また、他者と関わる機会が少ない子どもも少なくありません。この取り組みを通して、働く大人と関わりながら、一人ひとりが自分自身の中に価値を見出し、豊かな人間性を持った人に成長できるようになってもらいたいという気持ちがあります。子どもが学ぶ意欲や目標を持ち生きていく力を育むためには、仕事や職業人にふれる体験を、学校だけに任せるのではなく、社会と作っていく仕組みづくりが必要です」

人と触れ合い、大切にされる経験

事業の一つ「中学生〝自分再発見〟プロジェクト」は、子どもたちが地元企業の職業人と関わり、働くことの意味や大切さを学ぶことで、生きる力を育むことをねらいとし、市内の中学校を推進校に指定して、（平成二十一年度は五校を指定）進められています。

学校が中心となり作成した具体的なプログラムに基づき、キャリアコーディネーターが、事業に賛同する地元企業の社員を「わが街横須賀の子どもを育てる先生＝マ

ある中学校の自分“再発見”プログラム

①市内企業の若手社員（ＭＴＴ）を交えたグループディスカッション
②職業の仕組みを学ぶＭＴＴによるポスターセッション
③職業実体験
④企業でのインターンシップ
⑤まとめのグループディスカッション

ＭＴＴ（写真中央）は、「仕事のやりがい」「働くってどんなこと」等について、子どもたちと活発に意見を交わします

イタウンティーチャー（以下、MTT）」として、授業の時間に派遣します。MTTは職業体験の場面だけではなく、年間のプログラムを通じて、自身の職業観や勤労観を丁寧に子どもたちに伝えていきます。賛同する企業は、自動車工場、旅行会社、飲食店、金融、警察、通信会社、ガソリンスタンド、専門学校等、職種は多岐に渡ります。

細野さんはプログラムの効果を次のように感じています。

「子どもたちから、MTTと関わったことで、『これからの目標が持てた』『将来の仕事のイメージがわいた』などの声が聞かれます。職場体験では、『元気よく挨拶する』『わからないことがあったら質問する』など、人との関わり方への気付きや、親や教師とは違う第三者の大人から認めてもらえる経験をします。この経験は、人から大切にされる感覚を得る機会になります。また、MTT自身も、自分の仕事の説明をすることから、仕事に対する考え方を見直し、振り返る機会になることや、社員としてのアイデンティティの向上、地元への社会貢献にもつながるなど、相乗効果も見られています」

愛着心を育む環境を企業が作る

細野さんは、一人ひとりが将来に向けて成長をする力を育むのに、企業の役割を伝えます。

「仕事を見せ、働くことを身近に感じながら、子どもが社会と関わる環境づくりを、企業が担うことで、教育・産業分野、それぞれの立場で得手を生かしながら子どもの育ちを共有し、連携した仕組みを作ることができます」

子どもたちの心の成長には、身近なところでの豊かな体験が不可欠といえます。この取り組みでは、体験が充実するように企業が子どもの育ちに関心を持つことの大切さを伝えます。

生活体験が豊かなほど、学ぶ姿勢や道徳感、人への愛着心など、将来社会の構成員となる子どもの豊かな人間性が育まれていきます。地域の中でこうした育ちに関心を持つ人、様々な資源を活用した体験の場づくりが求められています。

（企画調整・情報提供担当）

ひと・ネットワーク 206

背中がおいしいよ

ヒューマンサポート湘南　院長
神奈川工科大学　非常勤講師
福祉クラブ生活協同組合　顧問
松沢　明彦

福祉、教育、東洋医学、生活協同組合等の分野にて仕事をしています。

具体的には、特別養護老人ホーム3施設にて、認知症の方々を中心に鍼灸、マッサージ施術。工業大学の創造工学部にて、福祉関連教科の授業担当。福祉クラブ生協にて、福祉関連事業の助言、お手伝いをしています。

ボランティア活動を含めると、30年近く福祉の世界に身を置いています。その月日の中で一番好きなことは、言葉にならない、言葉にできない方々との時間の共有。

アルツハイマー型認知症の方にマッサージ施術をした時のこと。記憶力が低下し、先週の施術を受けたことを忘れ、「何をするんじゃー」と怒り出すAさん。冗談やジェスチャーにて、場の雰囲気を和らげながらのマッサージ。だんだんと状況を理解され、「先生ありがとう。背中がおいしいよ。背中がおいちいよ」。認知症が進み、「背中が気持ち良い」というような表現が出来ない。記憶に残り、想起できる言葉が「おいしいよ」。「おいちいよ」。

一生懸命に言葉を探し、こちらに思いを伝えようとされていた。

伝えたいことがあるのに伝えることが上手にでない方。知的障害の方、失語症の方、構音障害の方、ほか大勢の方々。「うん。そうだよね」が連なる福祉のフィールド、息づく街が好き。そんな関係を作る接着剤なれる、代弁者になりたい。

今月の福祉資料室

「福祉資料室」をご利用下さい！
◆利用時間：月～金（第３金曜日、祝日、年末年始等を除く）の９時～17時
◆問合せ：☎045－311－8865

図書

★トラウマとPTSDの心理援助～心の傷に寄りそって（杉村省吾・本多修・冨永良喜・高橋哲編、金剛出版）
★福祉哲学の構想～福祉の思考空間を切り拓く（中村剛著、みらい）
★高齢者虐待とソーシャルワーク（山口光治著、みらい）
★地域福祉プログラム～地方自治体による開発と推進（平野隆之・榊原美樹編著、ミネルヴァ書房）
★福祉と教育のWEコラボ～障害児の〈育ち〉を支える（加瀬進編著、エンパワメント研究所）
★希望をもって生きる～生活保護の常識を覆す釧路チャレンジ（釧路市福祉部生活福祉事務所編集委員会編、CLC）
★介護現場でのアルコール関連問題Q&A～アンケート調査の結果から（関西アルコール関連問題学会編、筒井書房）
★地域包括ケアの行方～「みえ高齢者元気・かがやきプラン」から課題とあり方を探る（レジデンシャルケア研究会議編、筒井書房）

資料

★僕らしい、私らしい暮らしのために《障害児を育てていて負担に思うこと》～障害児と家族の生活状況調査から（横浜障害児を守る連絡協議会）
★「ふれあい学習」のススメ～社協が推進する地域福祉教育ハンドブック（長崎県社協）

私のおすすめの１冊

神奈川県保護司会連合会常務理事・横浜市保護司会協議会副会長
酒井　實

自分を活かす“気”の思想－幸田露伴「努力論」に学ぶ

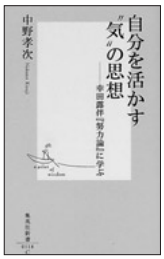
中野孝次　著

今、明るい社会が実現出来ているとは言い難い世の中に、私たちは対峙している。

不況は長引き仕事は無く、リストラや大量の肩たたきも横行している。さらに自殺者も交通事故による死亡者数を超えた。

人はどこか「ぎすぎす」として、幸福感は薄らいでいる。こんな現世に、元気づけの書物として露伴の「努力論」や「運命と人力と」の章を推薦したい。

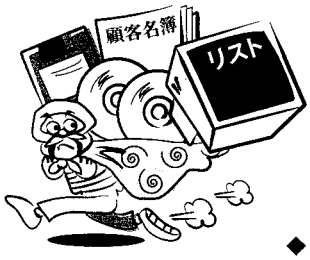
露伴の原書は難解だが、いい出会いになると思う。



2001年11月刊
定価693円（税込）
集英社新書

しせつの損害補償 プラン1。施設の業務中事故賠償補償②

●ホームページでも内容を紹介しています。
http://www.fukushihoken.co.jp



個人情報漏えい対応補償

この補償制度では、施設利用者の個人情報を漏えいし、施設（法人）が法律上の賠償責任を負った場合（おそれのある場合も含みます）の損害賠償金等を補償します。またこの補償は、社会福祉施設を運営する社会福祉法人のみを対象としています。

補償内容

- 第三者への損害賠償
- 弁護士費用等の訴訟費用
- ブランド価値のき損を防止・縮減するための費用

◆補償金額

	Aタイプ
第三者への損害賠償に関する補償 ○損害賠償金 ○訴訟費用	3,000万円
ブランド価値のき損を防止・縮減するための補償（注1） ○クレーム対応費用 ○見舞品購入費用等	期間中 100万円
免責金額（自己負担額）	0円

◆年額保険料（掛金）

法人で運営している施設定員数	Aタイプ
～50名	27,000円
51名～100名	34,000円
101名～150名	41,000円
151名～200名	48,000円
以降１名～50名増ごとに	4,000円

※介護老人保険施設、有料老人ホームおよび病院は補償対象となりませんので定員数には入りません。
※訪問介護など利用者の自宅で行う居宅サービスなどの利用人数や施設の職員数は合算する必要はありません。

●このご案内は概要を説明したものです。詳しい内容のお問い合わせは下記にお願いします

団体契約者　社会福祉法人
全国社会福祉協議会

取扱代理店　株式会社 福祉保険サービス
〒100-0013 東京都千代田区霞が関３丁目３番２号 新霞が関ビル17F
TEL：03(3581)4667 FAX：03(3581)4763

●この保険は全国社会福祉協議会が保険会社と一括して契約を行う団体契約（個人情報取扱事業者保険）です。　〈引受幹事保険会社〉株式会社 損害保険ジャパン

（注1）縮小てん補割合90％でお支払いします。

〈SJ08-11764, 2009. 02. 25〉

Information

役員会の動き

◇理事会＝12月17日（木）①正会員の入会申込②評議員の選任③平成21年度一般会計補正予算（案）④平成22年度県社協事業推進方針（案）

◇新会員紹介

【経営者部会】㈱慶優会

【施設部会】横浜市中川地域ケアプラザ、港南つくしんぼ保育園、みんなと暮らす町

第10回横須賀地区高齢者福祉シンポジウム

◇日時＝平成22年2月6日（土）9時50分～12時30分（受付9時30分）

◇会場＝神奈川県立保健福祉大学講堂（京急線「県立大学」駅下車徒歩5分）

◇内容＝基調講演「地域が育む介護力」澤田信子氏（県立大学教授）他、高齢者福祉施設職員の研究発表会

◇参加費＝無料（どなたでも参加できます）

◇問合先＝横須賀地区高齢者福祉連絡会（特養やまびこ荘☎046－858－0800）

※同時開催！「福祉のしごとフェア」（かながわ福祉人材センター主催）

平成21年度かながわ福祉教育・ボランティア学習推進セミナー

◇日時＝平成22年2月25日（木）1時30分～3時30分（開場1時）

◇会場＝かながわ県民センター12階第2会議室（「横浜駅」下車徒歩5分）

◇内容＝講演「福祉と地域の活動を支える社会力」門脇厚司氏（筑波大学名誉教授・社会力総合研究所所長）

◇対象＝市区町村社協の福祉教育担当者・ボランティア担当者、県内小・中・高等学校教職員、社会教育（生涯学習）関係者、ボランティアグループ・団体・NPO法人等のボランティアコーディネーター及び活動者等

◇参加費＝無料

◇定員＝40名（先着順）

◇締切＝平成22年2月22日（月）

◇問合先＝かながわボランティアセンター

☎045－312－1121（代）

FAX045－312－6307

寄附金品ありがとうございました

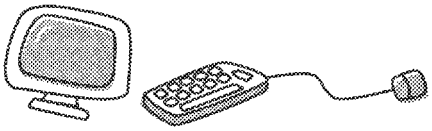
【一般寄附金】▽妙深寺婦人会▽脇隆志

【交通遺児援護基金】▽神奈川県石油業協同組合▽㈱中日新聞社会事業団東京支部▽㈱小田原ジムキ

【ともしび基金】▽㈶県雇用開発協会▽㈶十愛会▽㈳県看護協会▽㈳県薬剤師会▽㈱箱根町社協▽㈱藤沢市社協▽㈲日栄浴場▽㈲よしの湯▽梅の湯▽喜久の湯▽県共同募金会▽県グラウンドゴルフ協会▽県交通遺児家庭の会▽県社会福祉士会▽県障害者地域作業所連絡協議会▽県商工会連合会▽県身体障害者連合会▽県知的障害者施設団体連合会▽県手をつなぐ育成会▽県福利協会▽県保育会▽県ホームヘルプ協会▽県生活協同組合連合会▽県老人クラブ連合会▽県医療福祉施設協同組合▽県介護福祉士会▽県高齢者福祉施設協議会▽県肢体不自由児協会▽県肢体不自由児者父母の会連合会▽県心身障害児者父母の会連盟▽県保育士会▽ゴルフガーデンフォーレスト▽相模台浴場▽湘南ボウル▽新町浴場▽スリーエフ鎌倉台店▽第二常磐湯▽第二大和湯▽聖テレジア病院▽ともしびショップ輝▽ともしびショップグッズコーナー▽ともしびショップ県庁店▽ともしびショップ県民センター店▽ともしびショップさくら運営委員会▽ともしびショップスマイル▽ともしびショップポールライトひかり▽ともしびショップ保健福祉大学▽ともしびショップミュージアム▽中乃湯▽野川南台保育園▽葉山町▽日向台病院▽マエダ薬品商事㈱▽明徳湯▽やまゆり知的障害者生活サポート協会▽ゆりの会▽横須賀老人ホーム▽横浜エクセルホテル東急▽横浜中区浴場組合▽リバーイースト▽JA神奈川県信連・湘南・横浜・セレサ川崎・田奈・かながわ西湘▽㈳県土地建物保全協会▽県道路公社▽㈶県厚生福利振興会▽県警察本部▽県職員一同▽前田泰二▽県社協職員一同（計、一、五五七、九四八円）

【寄附物品】▽㈲四ツ葉工芸▽川崎規世▽県立近代美術館管理課▽神奈川県定年問題研究会▽神奈川トヨタ自動車㈱▽阿久和北部女性部会▽コカ・コーラセントラルジャパン㈱▽神奈川県南県税事務所（敬称略）

印刷の事ならおまかせください
パンフレット・冊子・丸瓶ものも・カタログ・ポスター
お気軽にご相談ください！
株式会社 あんざい
横浜市港南区下永谷3-24-29
TEL 045－822－8497
FAX 045－824－1303
mail：anzai@p-anzai.jp

あなたの情報発信のおてつだい
デザイン・印刷・ホームページ制作

KKI きかんし印刷
株式会社 神奈川機関紙印刷所
〒236－0004 横浜市金沢区福浦 2－1－12
営業部 TEL045(785)1700㈹ FAX045(784)6902
制作部 TEL045(785)1766 FAX045(780)1598
http://www.kki.co.jp/

第30回ともしびポスター・第23回ともしび絵本コンテスト

『みんなで奏でるハーモニー』

座間市立栗原中学校
3年　貴家　弥生さん

今回ともしび大賞を受賞した「みんなで奏でるハーモニー」。貴家弥生さんが属する吹奏楽部を題材にした作品です。

活動をともにする仲間の様子を表情豊かに描いたこの作品からは、それぞれの演奏者の躍動感溢れるハーモニーが、響いてくるように感じられます。

「ちがう人が、ちがう楽器で、ちがう音を奏でます。いろいろな個性あるからこそ、素晴らしい音楽になります。必要のない音はないと思います」と話す貴家さんの作品からは「一人ひとりが、かけがえのない存在」というメッセージが伝わってきます。

『みんなで奏でるハーモニー』は、みんながともに生きるまちに響き渡ります。

（ともしび運動推進担当）

①

②

③

④

⑤

発行日　2010年（平成22年）1月15日　毎月1回15日発行　発行所　〒221-0844　横浜市神奈川区沢渡4番地の2
社会福祉法人　神奈川県社会福祉協議会　TEL045-311-1423　FAX045-312-6302　編集発行人　米倉孝治　印刷所　株式会社　神奈川機関紙印刷所

ー社会福祉施設の設計監理ー

株式会社安江設計研究所
YASUE & ASSOCIATES'Inc.

東京都港区高輪2-19-17-808
TEL03(3449)1771／FAX03(3449)1772
URL：www.yasue-sekkei.co.jp
E－mail：yasue@yasue-sekkei.co.jp

特別養護老人ホーム（厚木市）

新築・増築・改修の他、耐震診断・建物定期報告・アスベスト調査等お気軽にご相談ください